

統計委員会基本計画部会
第2ワーキンググループ 第2回会合

議題2 社会・経済情勢の変化を勘案した検討
幸福度指標に関する説明資料

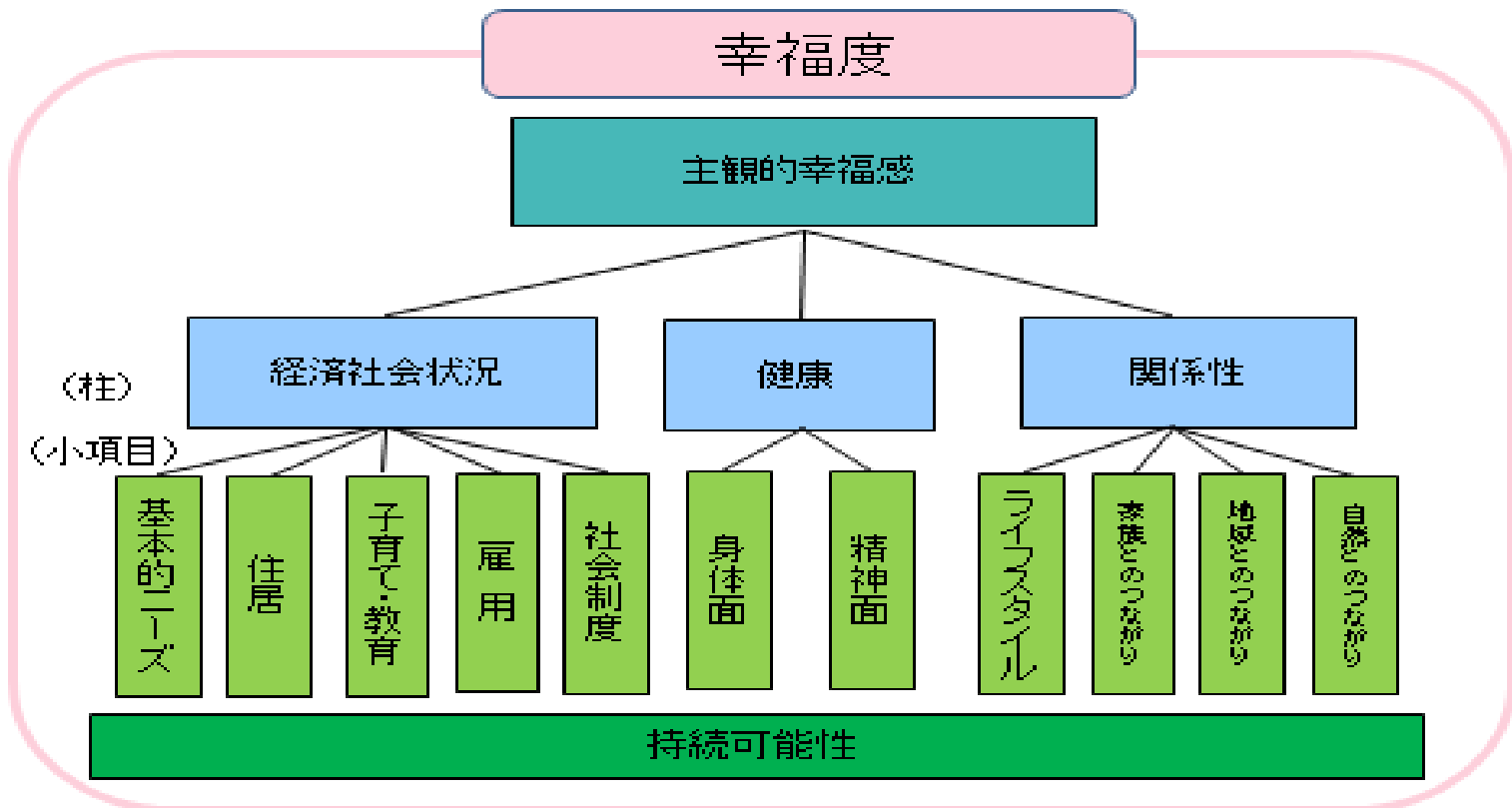
平成25年6月21日
内閣府経済社会総合研究所

幸福度研究の現状

- 内閣府に置かれた「幸福度に関する研究会(座長:山内直人阪大教授)」は7回開催。2011年12月に、報告書「幸福度指標試案」を公表。
- 経済社会総合研究所は「生活の質に関する調査」を実施。
 - 第1回 2012年3月(個人調査):集計結果、データを用いたDP等を公表。東大社研SSJデータアーカイブにて個票を公表。
 - 第2回 2013年2月(世帯調査):現在集計作業中。
 - 第3回(予定) 2014年春(世帯調査):第2回調査とパネルデータセット化を行い、所要の分析を行う。
- 第4回OECD「統計、知識及び政策に関する世界フォーラム」(2012年10月、インド)において、幸福度に関するアジア太平洋地域会合(2011年12月、東京)の結果を報告。

(参考1) 幸福度指標試案体系図

幸福度指標とは、個々人が感じる「幸福感」とそれを支える様々な要因を、地域、時系列で比較可能にした物差しであり、幸福度指標試案は以下のように体系化される132の指標から構成される。



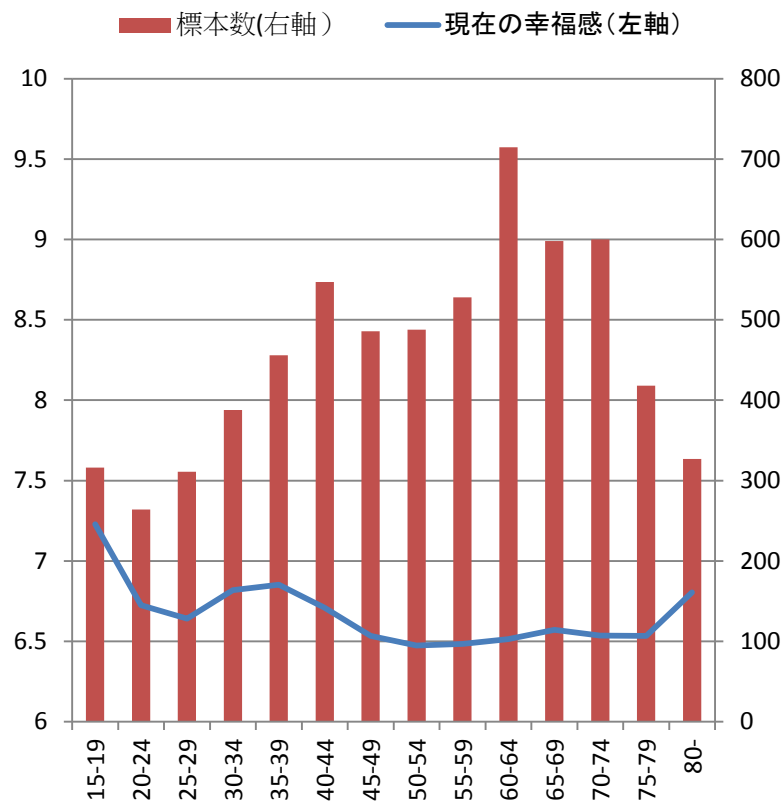
出所:内閣府幸福度に関する研究会報告(2011年12月、座長:山内直人阪大教授)

幸福度・質的成長の測定に関して 提出された有識者の考え方

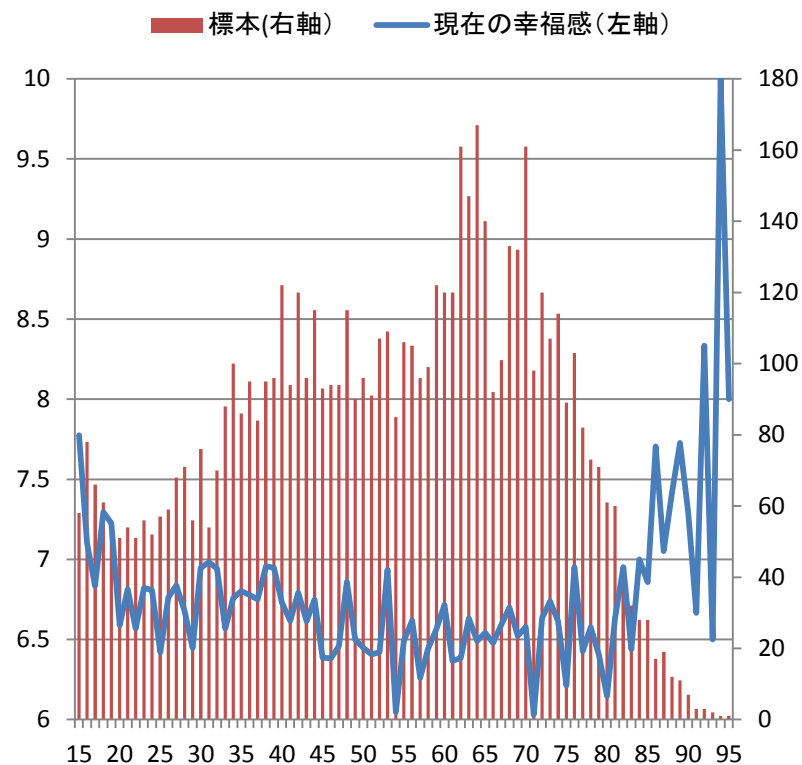
- 幸福度測定は世界的な潮流であり、幸福度の測定は重要。
- 幸福度測定においては官民連携が重要。
- 幸福度については、調査結果の客観性、政府による測定の信頼性、政策への利用可能性などで疑問が多々あり、公的統計に組み込むには慎重であるべき。
- 客観的統計と主観的統計の違いは、必ずしも大きなものではない。
- 幸福度の測定に当たっては、無作為抽出によるサンプルを用い、標本誤差が推計できるなどの条件を満たすべき。
- 調査により数値情報を入手できたとしても、安易な尺度作成で数字の独り歩きの誤謬を避けるべき。

(参考2)内閣府経済社会総合研究所 第1回生活の質に関する調査(2012年3月)における 各歳集計と年齢階級集計の違い

5歳階級別幸福感と標本数



各歳別幸福感と標本数



(注)縦軸(左軸)の現在の幸福感は、回答者に0点を「とても不幸」、10点を「とても幸せ」として0～10点の11段階で聞いた現在の幸福感の水準の平均値であり、回答者全体では6.6であった。